



学校便り はぎ

令和6年度 No. 10
発行：令和7年1月31日
東村山市立萩山小学校
TEL 042-391-8116
FAX 042-397-5405

「さん」付け呼名

萩山小学校 副校長 高島健造

萩山小学校では、子供の名前を呼ぶ際に「さん」を付けるように教職員一同で取り組んでいきたいと考えています。現在でも「さん」付け呼名が定着しつつあり、今では子供同士も名前を呼ぶ時は「さん」を付けて呼ぶ場面が多く見られます。一昔前では、女子には「さん」、男子には「くん」を付けて呼ぶことが当たり前でした。しかし、現在ではSDGsの5つ目の目標「ジェンダー平等を実現しよう」にあるように、国際的な人権意識の高まりとともに教育現場にもジェンダー平等を実現しようとする動きが活発になってきました。

私は教育現場におけるジェンダー平等を考える際に、ここ数年で起きた出来事がいくつか思い出されます。大学では2018年に医学部入試で女性受験者を不利に扱う得点操作が発覚しました。このような得点操作によって、長い間、男性受験者が女性受験者より合格率が高い状況が続き、男女の合格率に大きな差が生じていました。この状況を是正するために、2019年以降には男女別合格率を公表する取組を行い、それ以降、男女の合格率に大きな差が見られなくなりました。都立高校では2021年の入試まで多くの学校が、男女別定員制を設けていたため、都立高校入試の際に男女別の合格最低点に差が生まれることが問題となりました。この状況を是正するため、2022年から男女別定員制を段階的に撤廃し、2024年からは全面廃止しました。現在では性別に関係なく成績順で合格者を決めるようになりました。東村山市の公立中学校では、男女別だった制服を選択できるようにしたり、学習指導要領改訂に伴い2023年度から体育保健の授業を男女共修とし、基本的に全ての内容を男女一緒に学習するようになりました。

教育現場における人権意識の高まりはジェンダー平等に限らず、高齢者や障害者、外国人、子供、インターネットによる人権侵害など多くの分野に及んでいます。

1月23日には、野火止小学校で「令和5・6年度東京都教育委員会人権尊重教育推進校」の研究発表会が開催されました。萩山小学校の教職員もその研究発表会に参加し、人権教育の指

導方法について学んできました。その発表会では「自他を大切にしたいや考えを豊かに表現できる力の育成」を目標に高齢者や障害者、ハンセン病回復者等の人権について、交流したり体験したり歴史を学んだりすることを通して、学校全体の人権感覚や意識の育成に取り組んでいました。

人権を尊重する意義は多くありますが、その一つとして、一人一人に内在する力を最大限引き出すことを可能にすることなのではないでしょうか。

人権を尊重することは、個人の自由を保護し、自己決定権を保障することにつながります。これにより、個人は自分の人生を自ら選択し、自己実現に向けて最大限の努力をすることができるようになります。

人権が制限された環境では、個人の志向に合わせた取組や自己決定を行うことが難しくなるため、目標達成に向けた努力をあきらめざるを得ないことがあります。自分の力を最大限発揮できない社会では、一人一人のウェルビーイングの実現が不十分となり、それに伴って社会全体の豊かさも向上することを難しくします。自己決定に基づいた努力を通して、誰もが自分の力を最大限発揮し活躍する社会をつくるために、人権を尊重する大きな意義があるのだと考えます。

教育現場の人権尊重に向けた大きな変化は、長年の積み重ねによる成果です。大きな変化をすぐに起こすことは難しいですが、それを実現していく第一歩として、誰もができる「さん」付け呼名のような相手を尊重する言葉遣いに目を向けることが重要だと考えます。なぜなら、言葉は私たちの思考を形成し、私たちの行動を規定しているものだからです。

萩山小学校の全ての子供たちが自分の力を最大限発揮し活躍できるように、今後も萩山小学校全員で人権を尊重した環境づくりに取り組んでいきます。

最後に、3月8日(土)は「国際女性の日」です。例年この日の新聞各紙はジェンダー平等にまつわる記事が多数掲載されています。毎年、私はそれを読むたびに新たな視点を得ています。